

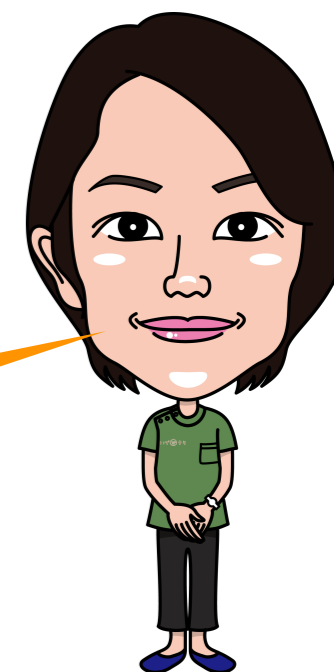


“いでクリ”の看護師業務について簡単に説明しますね。
ポイントは師長の森岡がコメントします。

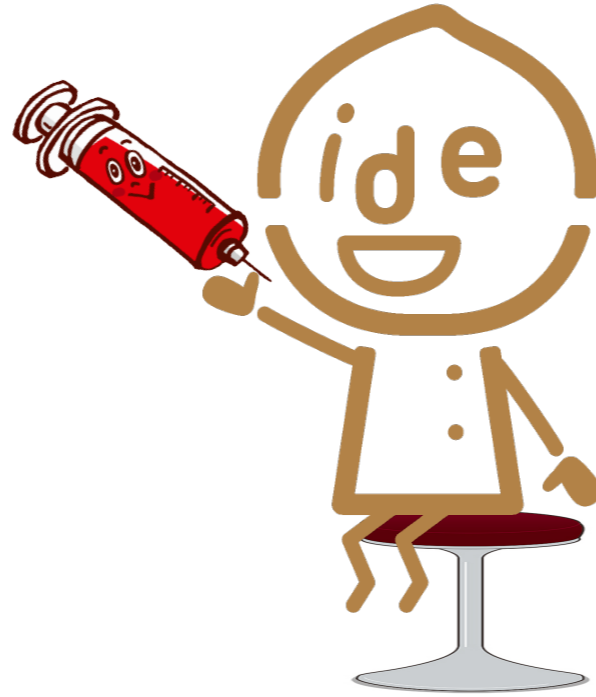
看護師業務の例

1. 採血
2. スキンケア・軟膏塗布指導
3. 吸入指導
4. 食物経口負荷試験
5. 肺機能検査
6. 医療秘書業務のヘルプ

看護師の視点から注意していることをコメントします。



採血



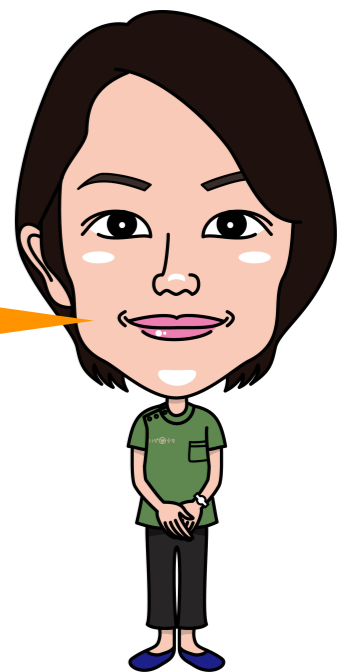
当院はアレルギーを専門としていますので、血液検査を行い、

何に対してアレルギー反応が起こっているのかを調べることが多々あります。

乳児からご高齢の方まで幅広い年齢層に対して、採血をしています。

小さな子供さんにも、なぜ採血をするのかを説明します。

また、子供達が恐怖心や痛みに対し、頑張ろうと思う勇気を持てるよう声掛けを行いながら実施します。



スキンケア・ 軟膏塗布指導



一緒に
一步一步

アトピー性皮膚炎の治療の中心はスキンケアとステロイド軟膏の塗布です。

たっぷりと軟膏を塗布することがとても大切です。

しかし、一旦改善はしても、治療をやめると、すぐに悪化します。

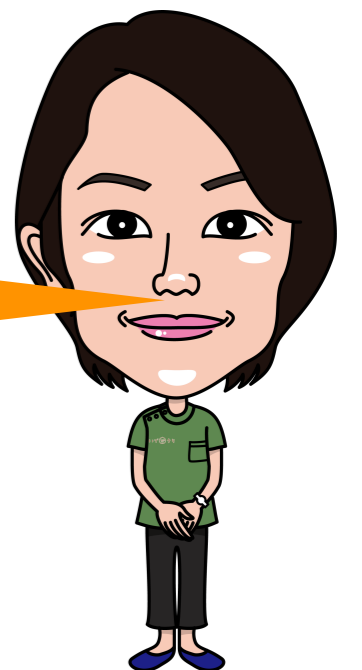
治療の継続のためにご本人・ご家族を支援していくことがあなたの大切な役割です。

医療は有限です。人の力は無限です。

子どもさん自身にも、塗り方の指導を行い、治る喜びを共有します。

毎日続けることができるように1人1人の生活スタイルの中で

工夫できることを一緒に考えていきます。



吸入指導



毎日頑張って
習慣に！

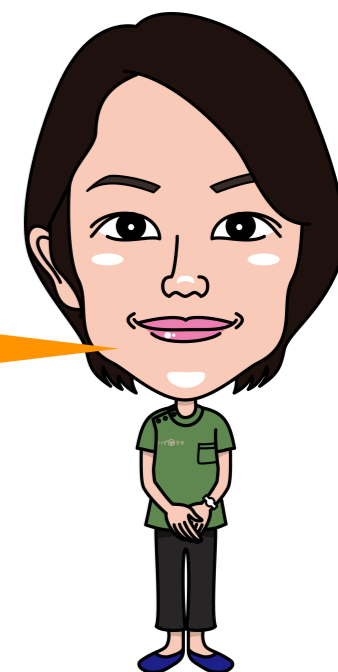
喘息治療の中心は吸入薬です。

気管支の炎症をしっかり抑えて、症状の改善だけでなく、肺機能の低下をストップ！

正しい吸入ができていないと治療していないようなもの・・・



パンフレットを用いて、喘息とはどのような病気なのか、
どうして継続的な治療が必要なのかをわかりやすく伝えます。



食物経口負荷試験



しっかり
確認が必要だよ

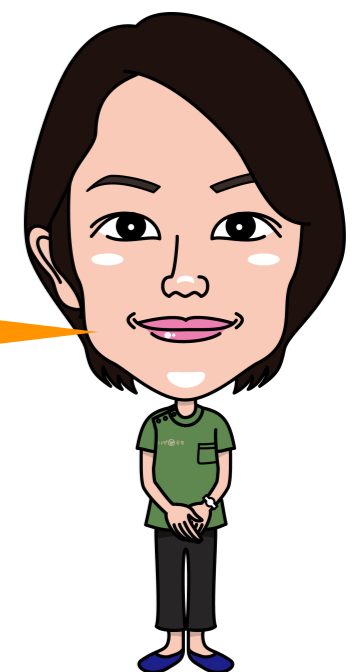
食物アレルギーは血液検査や皮膚テストではわかりません。

実際にクリニック内で摂取し、経過をモニターすることが必要です。

また、実際に食物アレルギーがあっても、食べることができる量は食べたほうが治る可能性が高まると言われています。食べることができる量を決める目的もあります。

離乳食の進め方や育児の悩みなども一緒に考えていきます。

食物負荷試験中にアナフィラキシー時の対応やエピペンの使用についても指導を行います。



肺機能検査

肺機能の
確認は必須！

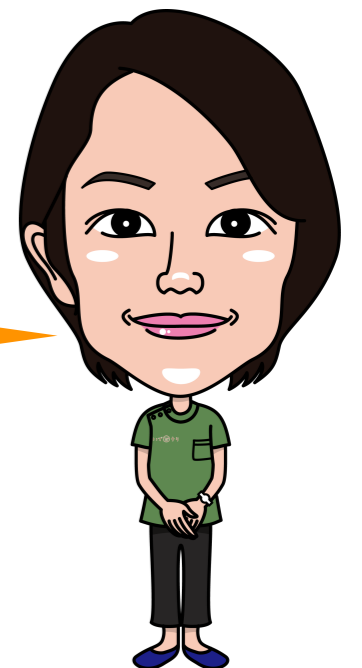


喘息の治療がうまくいっているかどうかは問診や診察だけではわかりません。

肺活量の測定が必須です。また、気管支喘息は咳の症状を繰り返す度に肺機能が低下

すると言われていています。しっかり、肺機能の成長を診ていくことが必要です。

検査がスムーズに行えるように子どもさんには動画を用いて説明
します。小さな子ども達でも“できた”と実感できるようお手伝い
していきます。



医療秘書のヘルプ。

代行入力で
診察スムーズ



当院では医療秘書による代行入力をしています。

医師がカルテ入力から開放されることで、患者様の顔を見て話を聞くことができます。

医療秘書のマンパワーが足りないときに、代行入力をお願いします。

どのように診療が行われているか、どのような考え方で診断から治療に結びつくのかを知るいい機会になります。

